

## タッチングプールの開催について

次長 上田 幸男

Key word ; タッチングプール, ふれあい水槽, サメ肌, ハリセンボン, カワハギ, ナマコ

---

水産研究所では徳島県沿岸に生息する魚介類をより身近に感じてもらい、知ってもらうことを目的に各種イベント等の機会をとらえてタッチングプール(ふれあい水槽)を企画・開催しています。今年度は5月31日に長原小学校と長原幼稚園(徳島県環境管理課主催の海辺の教室)で、7月16日に助任幼稚園、7月20日に小松島港(はも祭り, 写真 1,2), 7月24日に水産研究所(鳴門市子供いきいき課主催, 鳴門市再発見子供バス)で開催しました。

展示した魚介類は小型のサメ, クロアナゴ, ハリセンボン, メバル, アイナメ, カサゴ, ササノハベラ, マダイ, オヤピッチャ, マアジ, カレイ, クサフグ, ナマコ, ヒトデ, ウニ, コウイカなどです。サメには鋭い歯, マダイ, メバル, フグ, ウニには小さくても鋭い歯や棘があるので「さわらないで」と記した立て札を立てた別のプールを設け, 水産研究所職員が手で魚を持ち, 子供達に触ってもらいました。また, カワハギには申し訳ないですが, 子供達が怪我をしないように背鰭の鋭い棘を切除し, ヤスリのようなざらざらした肌触りを感じてもらいました。

子供も大人もざらざらしたヤスリのようなサメ肌, 意外に柔らかいハリセンボンの棘をさわりながら, その感触に驚いていました。ナマコは握ったり, 伸ばしたり, その肌触りを確かめていました。

このほかイベントに応じて, ハモ祭りではハモをより身近に見ることができるようハモ観察水槽を, 鳴門市再発見子供バスでは鳴門を代表する魚であるマダイ, ハマチなどのタッチングプールを別途設けました。

さかな達は子供達に触り続けられ, 終了後にはぐったりしていましたが, いずれの企画もたいへん盛況で, 子供達のきらきら輝く目と笑顔をみることができました。

水産研究所ではこれからも年に2~3回所内や出前のタッチングプールを開催する予定です。最後に元気な魚を提供いただいた多くの漁師さんに記して感謝します。



写真 1 平成 21 年 7 月 20 日の小松島八モ祭りのタッチングプールの風景。多くの親子連れが楽しみました。

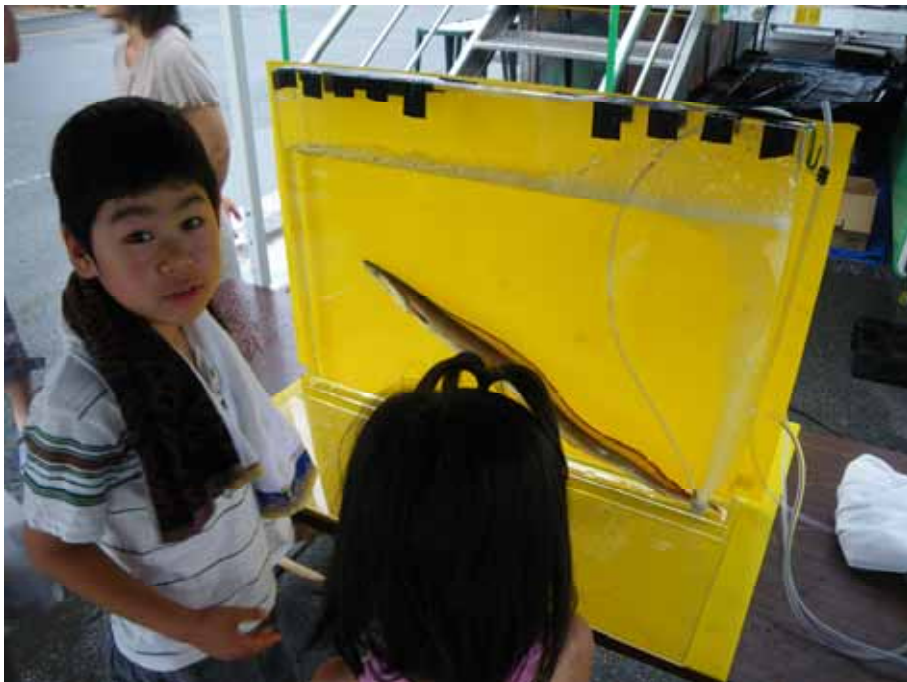


写真 2 同じく八モ祭りで八モをより身近に観察できるように工夫した薄型の八モ展示水槽を興味深く観察する子供達。八モも狭い水槽でおとなしくしていました。